

10BL 熱中症対策について

- JFA (別添) の指針に基づき、あらゆる活動より安全を優先する。
- WBGT (暑さ指数) 計を準備し、1 時間毎の記録をとる。
(本年度は北島、小比賀 2 名が携行しできる限り WBGT 計にて測定するが、会場に無い場合は気温 35℃を WBGT28℃とみなし運用する。)
- WBGT が 28℃ (※1) を超える場合、ベンチにはできる限りテント等を設置し選手、スタッフの日射を防ぐ対応を行う。
- WBGT の値が 28℃を超えた場合、各ハーフ単位で中間頃に試合時間に含めない3分間を上限とするクーリングブレイク (※2) をとり、選手と審判員はスポーツドリンク等の飲水及び身体の冷却を行う。
- WBGT の値が 28℃以下 25℃以上の場合は 1 分間の飲水タイムを設ける。
- WBGT の値が 25℃未満の場合でも両チーム、本部から申し出があれば主審の判断で飲水タイムを設けることができる。
- 20 分ハーフ、15 分ハーフのいずれにも適用する。
- 安全優先のために会場責任者の判断で試合時間短縮を行うことができる。(レギュレーションで 20 分ハーフの場合 15 分ハーフにしても試合成立。)
- クーリングブレイクの時間確保のため試合後の相手ベンチ挨拶等は省略し、試合間の時間短縮に役員と参加各チームは協力する。
- 当面、当初試合時間間隔は変更しないので、運営スタッフのみならず会場の全関係者で試合開始時刻の意識を高め、安全性確保と進行協力する。
- GK には飲水用ボトルを持たせ、ゴールわきでの飲水を勧める。

※1 WBGT 28℃…温度、湿度、照り返しをベースに計測する。気温だと 35℃位。

※2 クーリングブレイク…選手はベンチに座らせ、飲水以外に体の冷却等積極的に行う。

◆基本的なこと◆

★熱中症は当日の天候に起因すること以外に各クラブ、家庭の準備 (食事・睡眠等) が大切です。安全管理は各クラブの責任で行ってください。(大会主催者はあくまでもアシストでしかないことを十分認識のうえ、大会に参加すること)

2016 年 5 月 29 日
10 ブロック委員長 北島

10ブロック熱中症対策

	WGBT>28°C	28°C≧WGBT≧25°C	25°C>WGBT	備考
ベンチ	できる限りテント等を設置し、選手・スタッフの日射を防ぐ対応を行う。			
試合中	各ハーフ単位で中間頃に試合時間に含めない3分間を上限とするクーリングブレイクを取る。	1分間の給水タイムを設ける	本部からの申し出があれば主審の判断で給水タイムを設けることができる	20分ハーフ・15分ハーフのいずれにも適用する。
	GKには給水用ボトルを持たせ、ゴール脇での飲水を勧める。			
試合時間	安全優先のために会場責任者の判断で試合時間短縮を行うことができる (レギュレーションで20分ハーフの場合、15分ハーフにしても試合成立)			
試合前後	クーリングブレイクの時間確保のため試合後の相手ベンチ挨拶等は省略し、試合間の時間短縮に役員と参加各チームは協力する。			